

# かながわの風

42  
January  
2024

<http://www.kacsw.or.jp>



会員番号(No.48447):上山 由美子氏 撮影

## 特集

多文化高齢社会ネットかながわ  
(TKNK)の活動報告  
……………p.4-5

- 年頭所感「新しい年を迎えて」…………… p.2
- 支部長に聞く!今年の支部の抱負…………… p.3
- 公益法人化10周年事業～横浜支部～…………… p.6
- 2023(令和5)年度 理事会報告…………… p.7
- 公開講座・研修情報…………… p.8



## 年頭所感

# 新しい年を迎えて

会長 すみ こう ち 隅河内 司



2024年(令和6年)、新しい年が始まりました。あけましておめでとうございます。神奈川県民の皆様と会員の皆様には、日頃より本会の事業にご理解とご支援をいただき、誠にありがとうございます。本年もどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

昨年は3年半にも及んだコロナ禍に終わりの兆しが見え、2023年5月からの五類感染症への移行後、徐々に、コロナ前の社会への復活が進んできました。完全に収束したわけではありませんが、感染に注意をしながらも対面で人と会って、社会活動が行えることは、人との直接の繋がりの大切さを改めて実感できました。

本会では、コロナ禍においても支援を必要とする人々に対し、その生活と権利を守るための実践を続けることへの方法を模索し、オンラインなどの方法を駆使しながら活動を進めていきましたが、昨年はその方法の利点も残しつつ、対面とオンラインとを工夫しながらの事業展開が出来た1年だったのではと振り返ります。また、2023年度は公益社団法人となって10年目を迎え、10周年記念企画として、事業部・支部で、さまざまな講演会、研修会等を開催しました。単なる記念イベントにならないように、私たちは専門職として何を実践し、課題には何があるのか、これから先はどう進んでいくのか、を考える機会にしたいと取り組んでまいりました。

そして、10周年記念の年度の締めくくりの企画として、2024年2月25日に「共生社会とソーシャルワーク」をテーマに講演会、「ソーシャルワーカーが創る共生社会～社会福祉士の役割を考える」をテーマに会員の実践発表会を兼ねたパネルディスカッションを行います。

私が会長に就任した最初の新年の挨拶の中で、「地域共生社会の実現のための社会福祉法等の一部を改正する法律」が公布されたことに伴う社会福祉士への期待の高まりを受け、地域共生社会の実現に向けて中核的な役割を果たすことが求められていることについて触れました。また、私の恩師の教え方から共生社会の基本原則を①「反貧困」としての福祉、②「反抑圧・反差別」としての平等、③「戦争」を根絶する平和、であるとし、これらのことを構成要件として踏まえ共生社会をつくること、貧困や抑圧、差別や戦争を絶対になくしていくことが大切であるという考え方を述べさせて頂きました。

その後、私たち社会福祉士は「共生社会」の実現にどのように取り組んできたでしょうか。私たちを取り巻く社会は、未曾有の事態となったコロナ禍があり、世界では愚かしい戦争が続いている国があり、3年前に比較して良い方向へ進んでいるとは言い難い状況にあります。しかしそれでも、だからこそ、「共生社会」について、その考えを多くの人と共有していく歩みが大切です。私たち社会福祉士は、ソーシャルワーカーとして、個々が直面する生活課題を社会問題として捉え、問題解決に向けて努力すること、そして、個人の努力に期待しすぎない社会、寛容な社会、分断と排除を許さない社会、こうした「共生社会」の実現に向けて邁進することが使命です。2月25日に開催する記念企画では皆様と共に今一度、共生社会について思いを共有できる機会にしたいと思ひます。多くの方のご参加をお待ちしております。

神奈川県社会福祉士会は専門職団体として、本年も会員の皆様と協力して、県民の福祉のより一層の向上を目指し活動していきたいと思ひます。最後になりましたが、寒さも一段と厳しい日々ですが、皆様のご健勝を祈念し新年の挨拶とさせていただきます。

# 今年の支部の抱負

～今年の支部活動を漢字1文字で～



## 川崎支部

支部長 武笠 太郎

歩

今年度より平山支部長から代わり、あわただしく1年が過ぎようとしています。昨年は「安」をテーマにコロナ禍の中、行動してまいりました。

まだまだ以前のような生活に戻っていません。世界情勢も平和から遠ざかっているように思います。今年は「歩」です。毎日が元気で楽しい日々が送れますよう、社会福祉士として何ができるか支部会員さんと一歩一歩ゆっくり考えて前に進んでいきます。

## 横浜支部

支部長 江原 顕

試

今年も「試練」の年です。新型コロナは、感染症法上5類になったとはいえ終息していません。健康の影響をより受けやすいクライアントの生活を引き続きお守りする必要があります。また、今年は「試行錯誤」の年と考えています。感染症を含め、人口減少や少子高齢化、温暖化、風水害の増加など、未曾有の状態に立ち向かうためには、考えや行動を変革しなくてはなりません。しかし、この間、私たちは大きな経験と知恵を得ました。きっと対応できます。私たち自身の健康にも留意して、無理せず、地域共生社会の実現に向けて「トライ」!

## 県央支部

支部長 末永 都生夫

赴

食料品やエネルギー価格の上昇が止まらない昨年、国民は節約志向を強めています。このような厳しい状況の中、今年の県央支部の重点目標は、支部会員が生活困窮者の支援の現場へ実際に赴くことです。

昨年度に引き続き、民間が主導しているフードバンクの食糧配布事業やこども食堂におけるお弁当提供といった活動への協力をさらに強化します。定例会では、他職種の専門家を講師としてお招きし、社会福祉士と違った視点から見た利用者支援の方法を教えてください。こうした支部活動を通じ、会員同士の交流を一層深めます。

## 湘南東支部

支部長 長谷川 栄子

緩

ITを使う集い方や情報発信をすることで、活動の輪が広がり新たな形で行政や地域住民と繋がりました。今年はさらにSNS機能を活用し会員同士を繋ぎ、互いに情報交換し学び合う研鑽の機会を持ちます。「緩」やかに広く繋がれるよう、活動に参加しやすい環境を整えます。地域共生社会の実現に向けて、それぞれが成長し合い、しっかりと地域の中で専門職としての役割を果たしていく柔軟な応用力をつけていくための1年にしたいと思います。

## 西湘支部

支部長 重本 晴賀

紡

昨年の公益社団化10周年記念事業では、皆様の力を借りて大盛況のうちに幕を閉じました。改めて西湘支部と西湘地域の底力・社会福祉士の結束力を実感した年になりました。

今年は障害福祉サービス報酬改定の年でもあり、障害分野に目を向け、「地域共生社会の現状と課題～多課題家族への重層的支援～」をテーマに、これまで西湘支部に関わって下さっている多くの方々々と継続して繋がりながら、様々な思いを紡ぐ1年にしたいと思います。

## 湘南西支部

支部長 和田 貴子

対

2023年は5月にコロナが5類になりました。生活は徐々にコロナ以前に戻りつつありますが、ITの社会への浸透はかなり進みました。「対」は、向かい合う(敵対・対岸・対面)、こたえる(対策・対応)、つりあう(対称・対等)等があります。対という字は、方向性を決める時に、反対意見や、同じ意見を持つ人と向き合って検討・対策するという基本的な行動に使われる漢字です。2024年は、人と対面に関わる事が多くなると思いますので、自分は人とどう向き合っているのかを、再度考える年になって欲しいと思います。

## 相模原支部

支部長 小野澤 和美

続

2023年9月から、継続的な学びの場として、オンラインサロンを開催しています。そこで、何よりも、学びを深めて実践に繋げていくことが、私たちの資質向上につながることを理解することができました。

興味を持って、楽しく学ぶ場に参加して下さった方々の笑顔に支えられています。新しい年も、私たちの実践力を高めるために、学びの場を充実させ、続けていきたいと思っています。

## 横須賀・三浦支部

支部長 吉田 勝利

還

「自然に還れ」。かのジョン・ジャックルソーの思想を表現した言葉。社会状況の変化やニーズの多様化・複雑化と言われ続け、人が抱えるNEEDSの「私たち」は変化し続けていますが、私たち社会福祉士がかかわるひとの「本質」に変わりがあるのでしょうか?

私たち社会福祉士に求められている役割、支援の基本に立ち還り「私たちにできる事。聞けること、伝えられること」を意識しながら2024年度活動を行っていきたくと思っています。



【木村】 私は、2021年度に発足した多文化高齢社会ネットかながわ(以下、TKNK)に多文化ソーシャルワーク委員会から派遣され、他委員と共に3年間活動をしてきたので、報告させていただきます。

門さん、まずはTKNK発足の背景をご紹介下さい。

【門】 中国残留邦人や外国につながる方たちの日本語教室や学習支援教室を長年行っているユッカの会代表の中和子さんから「残留邦人の皆さんも高齢期に入り、老後、介護についての相談を受けることも増えてきた今こそ、取り組みをはじめませんか」と話がありました。神奈川県社会福祉協議会もまた、以前外国人支援事業を行っていたこと、またコロナ禍で外国人住民の生活課題が再び顕在化し取り組みの必要性を感じていたということでした。タイミングが合い、ともしび基金の助成事業として、協働モデル事業「外国につながる住民の高齢化に伴う生活課題への対応」を行うことになりました。そこで、社会福祉士として外国人高齢者の課題に取り組んでいた木村さんに声をかけたんです。

【木村】 9年前より介護認定調査員として、外国人高齢者には、言語、文化、制度の壁が課題だと感じた私は、地域包括支援センター職員やケアマネジャー、川崎市外国人市民代表者会議の関係者にも情報収集をしてました。個人での活動からTKNKとしての活動に広がったことで、大きな安心感がありました。続いて、TKNKの活動内容をご紹介下さい。

【門】 2020年度の準備期間を経て、2021年度から事業を開始しました。具体的には、①外国人高齢者の現状把握のための外国人住民及び施設(高齢者入所施設・地域包括支援センター・居宅介護支援事業所等)へのヒアリング調査、②その課題を県民と共有し理解を深めるための県民講座、③住民や福祉従事者を対象としたやさしい日本語講座やワークショップ、④関連調査・研究等の情報収集とデータベース化、⑤我々の活動報告とともに県内外の先駆的な実践者や研究者から学ぶシンポジウム等を主な活動内容としてきました。2023年度には様々な国・地域のキーパーソンから学び、互いに交流を深める「小さな交流会」も開始し、回を重ねるごとに参加者も増え議論も活発になってきています。

【木村】 私もデータベース作成に携わる他、県民講座、小さな交流会、シンポジウムでキーパーソンの紹介ができ光栄でした。2021年度には、TKNKメンバーを講師としてお迎えし、やさしい日本語の研修会を多文化ソーシャルワーク委員会として開催できましたね。

県民講座と小さな交流会では、在日コリアン高齢者のケアマネジャーを務める湯浅さんにもお話ししましたが、TKNKと共に活動していかがでしたか。



【湯浅】 改めて気づいたこともあり、TKNKの活動から多くを学ばせていただきました。調査に同席させていただいた際には、在日コリアン高齢者の皆さんが、将来暮らしたい場所として同胞の友人とのシェアハウスを挙げておられたのが大変印象的で、私たちの課題も明確になりました。

【木村】 2023年度の多文化ソーシャルワーク研修では、私も講師としてTKNKの活動を紹介した上、演習では外国人高齢者の課題を事例検討した際、湯浅さんにもコメント頂きましたね。



【湯浅】 はい、社会福祉士が関わる場面が確実に増えていることが実感されました。それぞれの場面で、皆さん果敢にアプローチしながら孤軍奮闘されている。実践の積み上げが集約されて共有されることの必要が高まっていることが分かりました。皆さん、関心が高い上に、社会福祉士として既に「学び」が構造化されていらっしゃる。知見が共有されれば、この分野で社会福祉士ができることは大きく前進するものと期待されます。

【木村】 さて、門さんは、TKNKのリーダーとして参加してみて、この3年間をどう振り返りますか。

【門】 県域で活動を行うことで、多くの仲間と課題を共有し、取り組むことができると改めて実感しました。福祉と多文

化領域のそれぞれで活躍される方たちと創り上げてきたTKNKでの3年間は、互いを知り、課題を共有し、それぞれの強みを活かしつつサポートしあうチャレンジの日々でした。自身がわからないことがあれば隔週の勉強会でメンバーに相談できる、地域を基盤とした取り組みだからこそ、顔が見える関係が様々な場面で生まれてくる。制度の狭間に陥りがちな課題を地域のネットワークで当事者とともに取り組んでいくことの大切さを実感しています。

【木村】 私も同じです。加えて、川崎市外国人市民代表者会議では、2022年度のオープン会議で外国人高齢者の課題について取り扱って欲しいとお願いしたところ、2023年度に正式に取り上げて頂き、専門職向けに多文化理解とやさしい日本語を学ぶ場づくり、介護保険パンフレット多言語版の普及について提言する予定だそうです。また外国籍県民かながわ会議では、情報公表制度の項目に外国人支援が加わるといいですねという意見交換をするまでに至りました。

2年連続で川崎市外国人市民代表者会議オープン会議のコメントーターとして参加でしたが、いかがでしたか。

【門】 2023年度は「介護保険制度/日本語学習」について、本職である公益財団法人横浜市国際交流協会の職員としてコメントをしました。TKNKで活動してきた社会的包摂を目指す領域を超えた地域での生活基盤づくりという観点が重要であり、反映出来たのではないかなと思っています。何より、若手が多く担っている外国人市民の代表委員が学び、検討し、形にしてきたこの1年の深化と足跡に微力ながらも参加できたこと、介護に関わる課題は遠い先のことではなく、今、ここの自分とつながっている課題であることを共有できたことが何よりでした。



\*写真1枚目と2枚目は2022年度、3枚目は2023年度の川崎市外国人市民代表者会議(オープン会議)で撮影

【木村】 川崎市多文化共生社会推進指針(改定版)に加え、かながわ国際施策推進指針の意見募集がありました。私は、「(1) 外国籍県民等がくらしやすい環境づくり」の中にある「外国籍県民等への医療・福祉サービスの推進」についての対策を強化する必要性を意見した他、TKNKと多文化ソーシャルワーク委員会内で意見を上げていく意義を共有しました。

社会福祉士は、現場の現状や課題をどう解決すべきか、どういう政策が必要かを提言していくことも専門です。ひとりではなく、仲間と共に政策提言できることをうれしく思いました。お二人はどう思いますか。

【門】 ユッカの会代表の中さんは、ボランティアの方たちが大切にしている“根っこ”がTKNKの活動につながったと言っていました。一人ひとりの思いや課題を共有・共感し、社会資源とつなぎ・つながり、時には新たな形を創り、必要に応じ政策提言も行っていくなど、社会福祉士として行えることは多様であり、奥深いと実感しています。

【湯浅】 実践の中では、マクロレベルの課題も自ずと見えてきます。個人の力量を超える課題は、「壁」のように立ちはだかっても見えますが、仲間と共に、当事者、関係機関、地域と協働を作り上げていく働きの中に、社会福祉士としてのやりがいを感じています。それは政策提言のプロセスであると同時に、新たなネットワーク構築でもあります。

【木村】 社会福祉士は、高齢者、障害者、児童等の個別支援に加え、新しく社会資源やサービスを開拓したり、政策を提言することも専門です。公的な会議や委員会等にも出席し、重要な立場を担うことがあります。今回は、県民と会員の皆さん向けの広報誌で、神奈川県社会福祉協議会との協働事業を報告でき、うれしく思います。

2023年度はTKNKとしての活動報告会、2024年度は多文化ソーシャル委員会としての研修会(報告会)を予定しており、現状と課題について共有したいと思います。皆さんの参加をお待ちしております。



# 「シームレス」を担うその日まで私たちの挑戦は続く

横浜支部

社会福祉士は、幅広い対象層の個別支援を担う他、関係機関や地域連携等幅広い知識と技術をもつ専門職です。本年度は本会が公益社団法人化10周年にあたることから、前号で西湘支部・湘南西支部の県民講座について、今号は横浜支部の県民講座について紹介いたします。

## 障害のある人に寄り添う意思決定支援とは ～就労支援の現場から～



昨年の10月8日、横浜市健康福祉総合センターにて、ハマジョブネットワーク※の企画により、社会福祉士を含む県民を対象に、淑徳大学副学長で社会福祉士の鈴木敏彦先生の講演とパネルディスカッションを行いました。

鈴木先生の講演では、憲法や障害者権利条約に触れつつ、働く権利の保障として就労支援があること、また、障害者総合支援法や「神奈川県当事者目線の障害福祉推進条例」において意思決定支援が規定され、就労支援において意思決定支援が非常に重要であることが説明されました。またライブステージを見たときに、児童期からの意思決定支援、また就職後の定着における意思決定支援も重要であると指摘されました。

パネルディスカッションでは、福祉現場から横浜市中部就労支援センター所長の芝野奈緒子さん、雇用する企業から株式会社ファンケルスマイル ジョブコーチの金谷梢さん、医療現場からさいとうクリニックの精神保健福祉士の後藤和馬さんにご登壇いただき、コーディネーターは本会横浜支部長でハマジョブネットワーク事務局の江原顕が務めました。

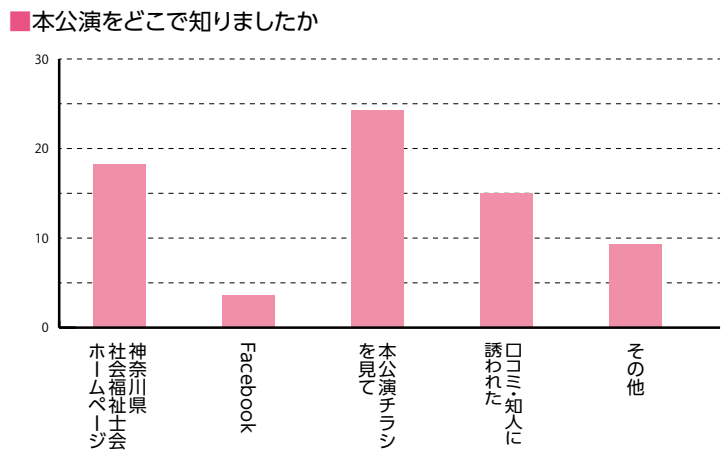
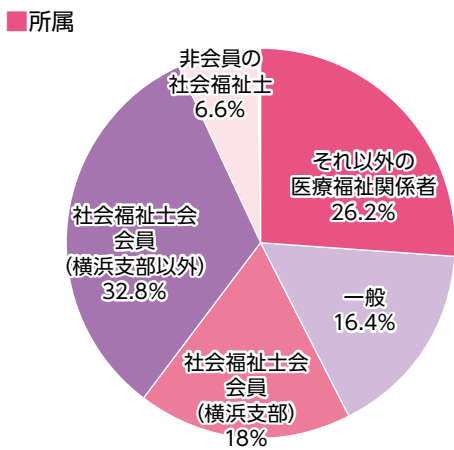
芝野さんからは、本人の意思なのか家族や学校の考えなのか見極める必要があること、金谷さんからは、企業として雇用する中で何度もコミュニケーションを重ねて関係性を構築していること、後藤さんからは就労前はもちろん就労後の精神の安定を図るべきであることなどが報告されました。そのご意見に対して鈴木先生との対話も興味深いものでした。



当日は3連休の中日で、午前中2時間の開催ではありましたが、150人を超える方にご来場いただきました。それぞれ自分の業務を振り返る有意義な時間になったようです。

文責：横浜支部 支部長 江原 顕

※ハマジョブネットワーク…横浜市内の障害のある方の就労に関わる福祉・教育・労働・医療機関、雇用企業、当事者団体などの支援者によるネットワーク。毎月1回夜間にネットワーク会議(定例勉強会)を開催。2017年発足。



# 〈2023(令和5)年度 理事会報告〉

※2023年度は集合会議とオンライン会議を併用して開催

## ■臨時理事会 2023年11月14日(火) 19:30~21:15 [オンライン会議]

議長:隅河内会長 議事録署名:出席全理事・監事 出席:理事18名 監事:本多洋実・事務局2名

**審議事項〈議事全承認〉** 議案1:入退会審査(10月分)…入退会審査→10月入会審査対象者8名全員承認。ほか転入0名、退会0名、10月末会員数3,177名、県内登録者数21,046名、組織率は、15.10%。入会審査対象者のうちキャンペーン(30歳以下入会金免除)の対象者は1名。 議案2:ばあとなあ神奈川後見人等候補者推薦、法人後見状況…新規登録者1名、抹消申請者2名、資格喪失1名で家裁名簿登載者556名、登録者全体で678名。推薦依頼は10月36件依頼で29件が調整中。法人後見は14件。なお、法人後見の業務執行者に関し選任者の提案があり承認。 議案3:2024年度各受託事業受託に関する本会の考え方…大幅に業務内容や受託事業の予算が変わらないことを前提とし、継続していくことの提案があり承認。 議案4:規則改正案…細則13号権利擁護センター「ばあとなあ神奈川」運営委員会運営に関する細則改正案を検討し承認。 議案5:支部役員の変更による委嘱(横須賀・三浦支部)…支部役員の変更については、承認。 議案6:地区コーディネーターの委嘱…ばあとなあの地区コーディネーターを1名追加し委嘱について承認。

**協議事項〈全了承〉** ①2024年度本会事業計画・予算編成について ②支部役員連絡会(11月18日)の内容 ③10周年記念企画(本会法人での企画)進捗状況 ◇1月14日開催「障害者の地域共生社会実現をめざして」打合せ予定、当日参加呼びかけ等の現況報告 ◇2月25日開催「共生社会とソーシャルワーク」準備担当チームのメンバー構成、パネルディスカッションチームの話し合い内容の報告

**報告事項〈全了承〉** ①会計執行状況(10月) ②各事業部委員会・受託事業2か月報告(8月9月分) ③各支部活動報告(8月9月分) ④業務執行理事活動状況(正副会長動向・10月11日以降11月14日迄) ⑤推薦後援状況 ⑥10月10日通常理事会議事録

## ■通常理事会 2023年12月10日(日) 15:00~17:00 [集合会議:ビジョンセンター横浜309]

議長:隅河内会長 議事録署名:出席全理事・監事 出席:理事15名・欠席3名 監事:東海林崇・事務局2名

**審議事項〈議事全承認〉** 議案1:入退会審査(11月分)…入退会審査→11月入会審査対象者5名、全員承認。ほか転入1名、転出1名、退会0名、11月末会員数3,184名、県内登録者数21,049名、組織率15.13%。入会審査対象者のうちキャンペーン(30歳以下入会金免除)対象者0名。 議案2:ばあとなあ神奈川後見人等候補者推薦、法人後見状況…新規登録者1名、再登録者0名、抹消申請者0名、資格喪失0名で家裁名簿登載者が556名、登録者全体で679名。推薦依頼は11月37件依頼で24件が調整中。法人後見は14件。 議案3:検証委員会報告と本会の今後の方針…検証委員会報告を受けて理事会での方針について検討した。2023年度末期限で対策検討結果をまとめる。 議案4:規則改正案…規則65号 電子取引データの訂正および削除の防止に関する事務処理規則制定案、基準1号 規則等作成に関わる基準改正案。

**協議事項〈全了承〉** ①10周年記念企画(本会法人での企画)進捗状況 ②地区コーディネーター事務費の規則改正に向けて検討している方向性

**報告事項〈全了承〉** ①会計執行状況(11月) ②業務執行理事活動状況(正副会長動向・11月14日以降) ③推薦後援状況 ④11月14日臨時理事会議事録



# 公開講座 & 研修会

お申込み・お問合せは 電話：045-317-2045  
FAX：045-317-2046 e-mail：web@kacsw.or.jp  
公益社団法人神奈川県社会福祉士会 事務局 までお願いします。

| 月 | 日  | 開始時間    | 終了時間  | 研修名   | 概要   | 場所               | 主催           | 対象         | 費用 |
|---|----|---------|-------|---|--|------------------|--------------|------------|----|
| 3 | 10 | 14:00   | 16:00 | 外国にルーツを持つ人たちと「やさしい日本語」でより良いコミュニケーションを～情報保障を考える～ | グループワーク、当事者の体験談【協力】横浜市国際交流協会、横浜市港北国際交流ラウンジ | 横浜市港北国際交流ラウンジ研修室 | 横浜支部(港北区連絡会) | テーマに関心のある方 | 無料 |
| 5 | 18 | 午後(調整中) | 調整中   | 湘南東支部全体会  | 調整中  | 藤沢商工会議所 ミナパーク    | 湘南東支部        | 会員等        | 無料 |

開催を予定しております研修・公開講座等は、新型コロナウイルスの感染状況により、やむなく開催を中止、あるいは延期する場合がございます。ご迷惑をおかけ致しますが、何卒ご理解頂きますようお願い申し上げます。なお、最新の状況につきましては本会のホームページをご確認ください。



<http://www.kacsw.or.jp/publics/index/234/>

神奈川県社会福祉士会 研修 講座

検索

表紙写真大募集!!

あなたの写真で「かながわの風」の表紙を飾りませんか?

**広報委員会では「かながわの風」の表紙を飾る写真を募集しています。**

- テーマ** 神奈川の風景
- カメラ** デジタルカメラで、一眼レフやコンパクトカメラ、スマートフォンなど機種は問いません。
- 画素数** 3024×4032ピクセル以上
- 送信先** koho@kacsw.or.jp

**《ご注意》**

- 写真のファイルサイズが大きい場合は、クラウドストレージなどをご利用ください。送信方法が不明な場合は、左記メールアドレスまでご相談ください。
- 人物を被写体にしないでください。人物が個人を特定できるサイズで写っている場合は、同意を得た場合でも採用しない場合があります。
- 採用する場合は、掲載写真前にメールにてご連絡を差し上げます。不採用の場合はご連絡を差し上げませんので、ご容赦ください。

BEST SHOTをお待ちしています!

編集委員も同時募集中!

編集委員も同時募集中!

本会会員の皆様の中で、広報制作に興味・関心がお有りの方は、事務局までお知らせください。是非、新しい「風」づくりに参加をお願い致します。なお、広報委員会は原則として奇数月の最終週の火曜日、19:00～21:00に開催しております。

(広報委員長：日向 明)

## 編集後記

～能登半島地震 百田宗治の詩によせて～

まず初めに、この度の能登半島地震により被災された方々に、一日でも早く平穏な日が訪れますようお願い申し上げます。石川県の発表によると1月11日午後2時の時点で県内で213人の方が命を落とされているといい、未だ37名の方が安否不明と伝えられている。私たちは被害の状況を知る時、どうしても数字を頼ってしまうが、1つの人生が213個失われた災害であり、発災後10日を経過しているが今もなお37名、お一人お一人の方がご家族や大切な誰かと再会することを待ちながら体を休めていることを忘れてはならない…。

ありきたりな文字しか綴れない、祈ることしかできないわが身がひどくもどかしい…。大正から昭和にかけて活躍した詩人、百田宗治(もまたそうじ)は詩集「何も無い庭」で次のような詩を綴っている。

「家のうへに屋根あり 屋根の上に月あるをおもうのみにて わが心足る」と。詩人百田は寢床についた際に感じたようである。風雨をし

のぐ屋根があり、その上には月が出ていて我を見守ってくれていると思うと心が満たされていく。こんな、ささやかなことにも心が和むのだと…。

未だ多くの方が避難所の体育館や公民館等で固い床に身を休めていると思うと、温かい部屋でこの原稿を推敲している我が身が…、言葉も出ない…。一日でも一分でもいや、一秒でも早く百田の想いを感じられるような生活に戻れるよう、行政が先頭に立ちしっかりと導きをと切に願う…。

報道によると避難所では感染症も増えているとある。感染症と地震災害の二つの困難に直面しているが、「災害復旧・復興」と「感染症の終息」という遍く人々の切なる想いを胸に、日々の生活の中にある、幾つものありふれた瞬間がいかに「幸せ」であるか今一度、自分に問うてみたい。そんな睦月である…。

(広報委員長：日向 明)

発行：2024年1月 発行責任者：会長 隅河内 司 編集：公益社団法人神奈川県社会福祉士会広報委員会 印刷：株式会社ガリバー  
問合せ先：公益社団法人神奈川県社会福祉士会 〒221-0825 横浜市神奈川区反町3-17-2 神奈川県社会福祉センター4F

植物油インキ使用